

幼児と共に迎えるクリスマス

——総合的表現としての

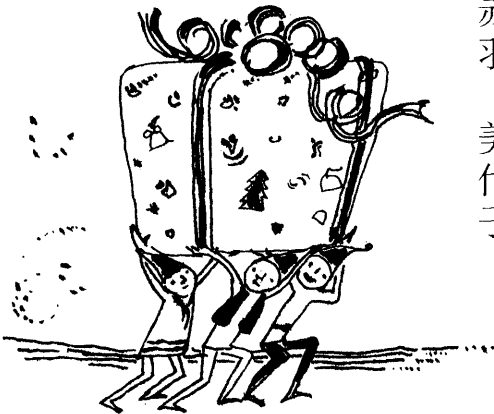
クリスマス聖劇に取り組む過程——

赤羽 美代子

質問

Q、R園の年間を通しての保育の流れをお聞かせください。

A、年間を通しての保育方法は「縦割り」混合保育です。幼児は、自由な時間帯の中で自分の意志に基づき、自主的な活動を展開します。幼児ひとりひとりが遊びの中で体験する側面・内面に視点をおき、心の成



長を促す保育とでも申しませうか。

Q、障害児を受け入れていただけますか？ 障害児保育に欠かせない、ポイントについてお聞かせください。

A、受け入れていきます。大切なポイントは教師の問題です。○鳥にも、草一本にも、呼吸を合わせる心を持ち、特別な幼児のニーズにきめ細かく対応する。○たえず学習を深め「今、私がいなければ。私は、必要とされている。」と情熱を傾ける。○共に手を取り合いい、思考するメンバーで構成されている教師集団がいる事です。

教師が、自分の心の^こり^をぶつけたたり、短気な心の目を無造作に向ける時、障害児の敏感な心が「平ら」である筈がありません。R園は専門家の先生方と園の教師が、必要に応じて、共に学習し合う体制が組まれていますので、明日に向かっての保育に新しい力が湧きます。

Q、R園園児の家庭環境をお聞かせ下さい。

A、(園児数〓三十五名〓四十名)大部分がマンション住まい(三階〓十階以上)。家族数〓平均、両親・子ども二人の四人家族です。近所には園児の友だちは皆無といえましょう。玄関の重い金属製の扉がピタッと閉ざされると、母と子のみの空間が、幼児の遊びの世界となります。必然的に「子どもの友だちを求めて」との理由で、母、子は〓〓塾、〓〓教室へ通い、受験を目的とした訓練が母、子共にしっかりと身についていきます。

幼児は「自由に、自発的に遊ぶ力」の根元が、次第に細まる時期に入園を迎えます。

Q、新入園児の四月の状態と、この時期の取り組み方をお聞かせ下さい。

A、先の質問でお答えしたように、ひとりひとりの生活習慣のカラーが、色とりどりに染まっている幼児たちです。

一九八八年四月、R園三・四歳児（入園二週目）の行動をチェックした、大まかな例を上げてみますと、AⅡ自分の活動を教師に依存する。BⅡ「遊び」そのものが解らない。遊びのイメージが湧かない。CⅡ「園庭での遊び」を誘導すると『土がつくからきたない』『虫がいる』『水がはねて服がよごれる』。DⅡ「園舎内の遊び」の傾向。女兒は言葉達者に使いこなして我を張る。男・女兒共にすぐ泣く（めそめそ泣き・わめき泣き）。EⅡ園のスロープ（ゆるやかな坂）での遊びは、自動車・スクーターをこいでスピードを出し風を切つて飛ばす。幼児同志の遊びのイメージがかなり重なり、長時間、異年齢児とのグループ活動が展開する。（信号作り。一方通行を守る。交通整理のお巡りさん。ガソリンスタンド。乗り物の連結を工夫、発見する。友だちの発見を模倣し、新しい遊びの発見をする。新入園児はルール違反が多く、邪魔をするが、新入園児なりの遊びを続ける）

—— 幼児降園後の教師の課題 ——

これらの幼児の行動は、自ら選んだ意志的行動力、習慣的な反応か、他指示に寄る行動か、内面を検討する。

教師会①

—— 幼児にとって必要な体験を考える ——

最近、幼児が身につける大切な習慣として、基本的生活習慣が強調されます。

朝、幼児の起床（家人が起こす）と同事にトイレ、歯磨き、着衣、食事等に関する母親の指示が命令形で幼児の頭上に飛びかいます。「行動がのろいので、つい口や手が出てしまいます。生活習慣が身にきちんとなつかないと学校に入れてくれませんので」と母親は語る。（母親が選んだ服を幼児は好まず、この時だけは自分の意志活動を発揮するようです。母親にタンスの前で長時間の抵抗を試み、服を着ずに頑張る子に、母親が負けるという結果になるそうです。）自分が選んだ服を着て颯爽と登園する素敵なスタイルストたち。又、他の幼児も、思わず見入ってしまう、ナ、ウ、イ、色、彩、感、覚、の、ポ、ー、イ、も、現、わ

れ、母親が恥じ入る姿も見られる愉快で楽しい朝の登園風景です。

起床後、幼児自身の選択による、こんな、朝の体験はいかがでしょうか？ ● Ⅱ 幼児の発想。◎ Ⅱ 母親

● 今朝は、足が冷えるから、長靴下を履こうか？ いや、短靴下の方が恰好が良いのでは？

◎ 幼児の選択を待つが、母の考えも話す場合もある。

● 朝、幼稚園に一番に着きたい気持ちがあるが、朝のテレビの続きも見たい。

◎ 幼児に選択と決断の機会を与え、幼児が直面する事柄に、大人は、幼児の問題にポイントを定め、「指示」する事もあれば、「待つ」場合もある。積極的な生活習慣が、自然に積み重なって、幼児の内面が育っていくのを促したい。

教師会②

——障害児と共に歩む保育について思考する——

○ 「社会性を養う」「平等への参加」を目的として、指

導してしまう保育は「強制的抑圧」が伴って障害児は、「無気力状態」「自立性衰弱」を積み重ねるだけです。障害児が、だんだんと教師の指示に従うのみの行動をするようになると、教師は、満足した保育の成果であるとして、良い評価をしようか？ 障害児の表面的な行動のレベルのみで関わる時、その本質を見失う結果となります。

○ 一見、ゆっくり、ノロノロの行動の中にも、分析すると、自分の考えによる自主的な目的をもった行動であり、その行動こそ、焦点を置くべきでしょう。

○ 「障害児を特別扱いをするのは差別」との考えで、終始、他の幼児と全く同じ扱いをしたり、特別な幼児の内面の訴えが聴かれなかったり、治療的な保育が無視された場合、理解されぬままに積み重なった人格形成の土壌は、自暴自棄の行動に走らざるを得ないでしょう。

教師会③ 十一月の教師会

——全園児が迎える「クリスマス」について思考する——

入園以来、八か月の園生活を経験した新入園児、或いは、二年三年近くの園生活を過ごした園児は、それなりに自然流が身につき、遊びのリズムとリラクソスの調和が保たれてきました。「遊び」に生かされ、育てられている、自然流免許皆伝を許された「遊び」の専門家たちです。

十二月は「期待と喜び」を抱き、待っていたクリスマスが、「良き喜びの訪問者」として幼児の宇宙にやってきました。トナカイは、鈴の音高らかにソリを引き、空を馳け巡り、同事に幼児たちの心も広い星空に飛び交います。

クリスマスの経験が、幼児の心に印象深い体験となつて今後の成長に繋がるように、全期間の「遊び」と「生活の環境」を裏付けとした幼児の「観察記録」をチェックして、整理いたします。

ひとりひとりの「遊び」の中に、基本的な原形として位置づいている型があります。

我慢する私と我を張る私。優しい私と残酷な



▲遊びの中の鳥が飛ぶ表現を幼児が星の子に取り入れました

私。強者の私と弱者の私。見ている私と見られている私。

「遊び」の中に、常に、一人の私は、私とは異なる感情の持ち主に変身するのです。怪獣の世界、おぼけの世界を自由自在に駆けまわるもう一人の私の行動を、友だちの評価によって、私を修正する場もあります。私と、もう一人の私が共存して遊ぶ。或る時は自主的に、ある場合には自発的に、又、指示を受けての行動と、行為する姿は、天才俳優といえども、演じる事は無理でしょう。

教師は心に留めねばならない場でもあります。

R園の十二月の保育は、幼児の全期間の裏付けとしての「総合的表現」を土台として、「聖劇」を展開させる事となりました。

幼児らは、サンタクロースの世界を思い、創造し、聖書の世界（イエス・キリストの降誕の次第）を演じ、（マリア、ヨセフ、天使、博士、羊飼、宿屋、赤星に）変身をいたします。

幼児自身は、見られる私になって役になりきり、心を自由に飛ばし、演ずる経験をするでしょう。

聖劇の内容は、神様の御計画が確かな形ですすめられる、キ



▲教会学校でのお祈りの場面を幼児がとり入れました

リスト降誕の場面です。心を静かにする場面・躍動する喜びの場面・驚きの場面を、幼児はリズム、歌、ダンスで表現します。

聖劇という、「一本のレール」が敷かれた保育ですが、行動の主体性はあくまでも幼児であり、幼児が自発的に自由に発想する独自性を十分に認める事が大切なポイントです。

リズムの拍子、歌の内容の理解と表現方法は、時によって教師は主導性を交錯させつつ幼児の内面をとらえ、幼児の求める方向へと、関わります。

「内面を見つめる」という、幼児との関わり保育は、理屈を超えた暖かさの交流の中で、幼児が本来の姿を表現してくれる喜びを感じ合う事でしょう。

（具体的な「クリスマス聖劇」



を幼児と共に創り上げていく記録は、紙面数の都合上割愛させていただきます。）
当日、母の会のお母様方が布にアップリケをした「キリスト降誕」の各場面の前で、幼児は活躍をいたしました。

（壺南坂幼稚園）